

# アピール

本土復帰 50 年を迎えた今年、沖縄の地に全国からてんかんのある人と家族が集う大会を開催することができました。残念ながら、新型コロナウイルスの感染拡大が未だ続き、沖縄を訪れることができない仲間も大勢いましたが、オンラインで参加をするという新しいスタイルでの参加もたくさんの人が活用してくれました。社会の情勢が変化しても、さまざまな取り組みを介して私たちの活動が必要とされていることを、確認することができました。

沖縄は、戦後アメリカの統治を受けるなど、他の地域とは異なる歴史を歩んできました。また、離島が多いという地理的な状況や、精神科の地域医療が発展してきた背景なども特徴的です。さらに、住民が高齢になっていく一方で、若い人の世帯や子どもの人口も増えています。こうした社会環境の中であって、どこに住んでいても誰にでも必要なてんかん医療が届けられる体制を整備することが望まれます。

現在政府は、適切なてんかん診療がどこで暮らしていても身近で受けられるための体制整備事業を、自治体とともに全国で進めています。今年度、この取り組みに参加する都道府県はついに半数を超えました。沖縄県でも、2018 年に取り組みが始まり、拠点病院を中心にてんかんについて理解を進める活動とともに、てんかん医療ネットワークの充実を目指しています。離島に住んでいても県内でてんかん医療が完結できる、子どもから大人への移行医療がスムーズに行われる体制づくりを、多くのてんかんのある人とその家族が、心から願っています。

## **ぬちどうたから（命こそ宝） 新しい時代に向け 手をつなごう 大きな輪（おきなわ）**

てんかんがあっても、夢を諦めることはありません。てんかんは誰もがかかることのある脳神経の病気です。適切な医療を受けることで、その7割以上の方が、発作症状から解放されます。

10 月は日本てんかん協会と日本てんかん学会が定めた「てんかんを正しく理解する月間（てんかん月間）」です。2月の第2月曜日は、てんかん関連の国際組織が定めた「世界てんかんの日（IED）」です。そして、3月26日は全世界の草の根活動による「Purple Day」です。

皆さんも一緒に、てんかんについて理解を深めてください。

私たちは「てんかんがある」と安心して言える社会を望みます。そして、私たちもてんかんを克服するために、自らの経験をもとにこれからも社会に対して声を発し続けていきます。

2022年10月23日

公益社団法人 日本てんかん協会  
第49回全国大会（沖縄大会）  
参加者一同